

I 基礎編

1 生活単元学習の評価

秋田県の特別支援学校、特に知的障害特別支援学校では、生活単元学習が教育課程の中心として重視され、小学部高学年では週当たり6～11時間、中学部では5～8時間実施されています。特に小学部高学年では、週当たり10時間が5校、11時間が2校と、約半数の学校で10時間以上設定されています。また、多くの学校では、生活単元学習が授業研究の対象として取り上げられています。

しかし、ねらいが不明確な単元、家庭生活や地域生活に生かされていない単元、教師が主導している単元、固定化された単元などはないでしょうか。生活単元学習の基礎・基本に基づく実践になっているか改めて振り返ってみましょう。

その際、以下に示した生活単元学習を評価する「7つの視点」を参考にしてください。これは、平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクトにおける授業研究会や各担当教諭の資料から得られた、授業改善の主な視点です。なお、③～⑤は、生活単元学習の指導計画作成上の留意点として「特別支援学校学習指導要領解説総則等編」に示されています。

参考：生活単元学習を評価する「7つの視点」

- ① 単元名が生活に即し、分かりやすく、吟味されているか。
- ② 単元の目標が生活上の目標達成や課題解決につながるものになっているか。
- ③ 実際の生活から発展した計画になっているか。
- ④ 身に付けた内容を生活に生かす計画になっているか。
- ⑤ 児童生徒の目標意識や課題意識を育てる活動を含んだ計画になっているか。
- ⑥ 児童生徒が興味・関心や課題意識をもてる授業の導入になっているか。
- ⑦ 児童生徒が十分活動し、繰り返す中で、気づき、考え、試行する授業の展開になっているか。

2 知的障害教育における指導の特徴

生活単元学習の基礎・基本の前に、知的障害教育における指導の特徴をおさえておきましょう。一つ目は、知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた教育的対応の基本です。すべての授業の基本になりますので、改めて確認しましょう。

知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた 教育的対応の基本

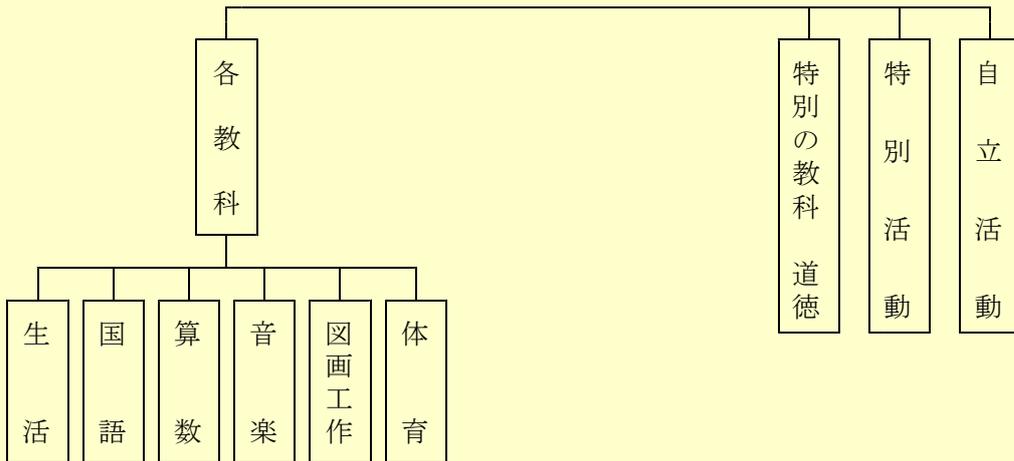
- ① 児童生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織する。
- ② 児童生徒が、自ら見通しをもって行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。
- ③ 望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に必要な技能や習慣が身に付くよう指導する。
- ④ 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能及び態度が育つよう指導する。
- ⑤ 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導する。
- ⑥ 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導する。
- ⑦ 児童生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、教材・教具等を工夫するとともに目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- ⑧ できる限り児童生徒の成功体験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切に、主体的活動を促すよう指導する。
- ⑨ 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるように指導する。
- ⑩ 児童生徒一人一人の発達の不均衡な面や情緒の不安定さなどの課題に応じて指導を徹底する。

* 特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）（高等部）より

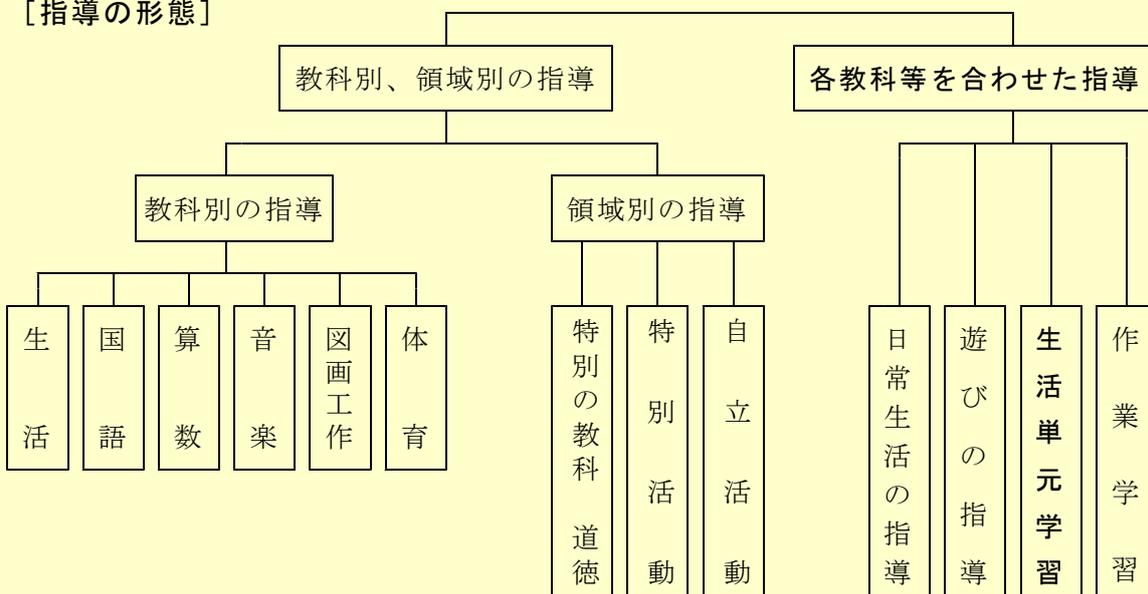
二つ目は、知的障害特別支援学校の教育課程の構造であり、よく「二重構造」と言われます。各教科等を合わせた指導は、各教科、特別の教科 道徳、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行うことですから、この「二重構造」の理解は不可欠です。また、各教科等の内容や段階を踏まえることも重要です。

特別支援学校（知的障害）の教育課程の構造について ～特別支援学校（知的障害）小学部の教育課程の例～

[教育課程の基本的内容]



[指導の形態]



* 中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会 特別支援教育部会
第6回配付資料より（平成28年2月22日）

3 生活単元学習の基本

基本的な考え方

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。

* 学習指導要領解説

生活単元学習のねらいは、生活上の目標の達成と課題を解決をすることにあります。また、一連の活動を組織的に経験することは、単元としてまとまりのある活動に取り組むこととなります。実際的・総合的に学習することも含めて、以下の6点が、生活単元学習としての特徴となります。なお、「生活単元学習指導の手引」発行当時の文言であることに留意してください。

生活単元学習の学習活動としての特徴

- ①主体的な学習：めあてと見通しをもって主体的に取り組める。
- ②総合的な学習：生活課題の成就に必要な総合的な活動に取り組める。
- ③実際的な学習：生活課題の成就に必要な実際的な活動に取り組める。
- ④活動的な学習：具体的な活動に能動的に取り組める。
- ⑤共同的な学習：共通の課題意識をもって共同で取り組める。
- ⑥個別的な学習：個に即した活動に取り組み、成就感が得られる。

* 平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクト基礎研修会資料より抜粋

(生活単元学習指導の手引より引用)

生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われます。小学部の生活科をはじめ、すべての各教科等の意義・目標・内容について、学習指導要領解説を通じ、十分理解しておきましょう。

生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。

* 学習指導要領解説

3 生活単元学習の基本

他の指導の形態との関連

生活単元学習と他の各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、作業学習）の違いが分かりにくいと感じる方もいるかと思えます。例えば、「小学部において、児童の知的障害の状態等に応じ、遊びを取り入れた生活単元学習を展開している学校もある（学習指導要領解説）」「働く活動を大きく位置付けた生活単元学習と単元化した作業学習の区別は難しい（作業学習指導の手引）」と示されています。

違いを理解するには、学習指導要領解説により各指導の形態の基本をおさえること、次に各指導の形態の手引により理解を深めることが必要です。その際、次の資料を参考にしてください。なお、各教科等を合わせた指導を行う場合には、内容相互の関連や系統性について配慮すること、教科別の指導や領域別の指導との関連を図ることが学習指導要領解説に示されています。

1 各教科等を合わせた指導の教育課程上の位置付け（イメージ図）

小学部（低→高）	中学部	高等部
遊びの指導	生活単元学習（体験→実際生活） （遊びの要素：多→少） （作業の要素：製作活動の少→多）	
	作業学習（生産→労働習慣）	
日常生活の指導		

2 学習活動のねらいによる各指導の形態の違い

～例：草花への水やり（かん水）～

- ・草花に毎朝水をかける系の活動 【日常生活の指導】
- ・草花の栽培を生活のテーマとした学習展開 【生活単元学習】
- ・生産活動として草花を大量に栽培 【作業学習】

* 平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクト基礎研修会資料より抜粋・一部改変

（参考：作業学習指導の手引）

3 生活単元学習の基本

指導計画作成上の留意点

生活単元学習の指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- (ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- (イ) 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- (ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
- (エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- (オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- (カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

生活単元学習の指導を計画するに当たっては、1つの単元が、2、3日で終わる場合もあれば、1学期間、あるいは、1年間続く場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について十分検討する必要がある。

* 学習指導要領解説

指導計画作成上の留意点として6点示されていますが、「個人差の大きい集団にも適合する」「集団全体で共同して取り組める」ことが非常に重要です。また、「豊かな内容」「多種多様な経験」は、先述した「広範囲に各教科等の内容が扱われる」と関連します。特に、年間を通じた単元を実施する場合は、この点に留意することが必要です。

3 生活単元学習の基本

指導上の留意点

遊びの指導や作業学習では、授業の導入場面から遊びや作業活動が始まり、存分に活動している様子が見られます。一方、生活単元学習では、導入場面で教師の説明が長く、児童生徒が受け身になっている授業が見られます。同じ各教科等を合わせた指導でありながら、なぜ授業の進め方が違うのでしょうか。決まった進め方があるわけではありませんが、少なくとも児童生徒が導入場面で活動を理解し、興味・関心や課題意識をもって活動できるような工夫は必要でしょう。次の文は「生活単元学習指導の手引」からの抜粋です。発行当時の文言ですが、考え方の参考になります。

教科別の指導の授業の形式から離れて（「生活単元学習の進め方」より）

生活単元学習の個々の授業を計画するに当たっては、伝統的な教科別の指導の授業形式へのこだわりを捨てなければならない。

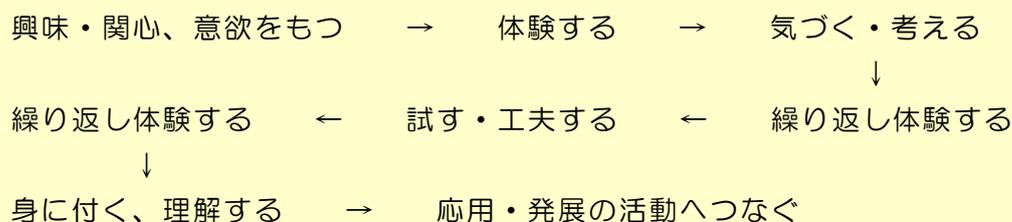
生活単元学習における個々の授業は、児童生徒の生活の一コマ、一コマを意味する。生活の一コマとしての活動の流れやまとまりは、一般的な教科別授業における活動の流れやまとまりとは異なる。

教師が黒板を背にして児童生徒に相対し、机に固定した児童生徒に説明・指示・問いかけを繰り返す形態を最小限にとどめることが必要となる。

* 生活単元学習指導の手引より抜粋

生活単元学習のねらいである児童生徒の生活上の目標達成や課題解決のためには、次のような児童生徒の活動の段階に応じて、進める必要があります。教師の言葉や動き、場の設定、教材・教具の工夫など、児童生徒ができる状況をどのように作るかがポイントになります。

【児童生徒の活動の段階（例）】



* 平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクト基礎研修会資料より抜粋・一部改変

3 生活単元学習の基本

重度・重複障害のある児童生徒への指導上の留意点

- (1) 一人一人の児童生徒をよく観察し、何に興味をもっているか、どんなことを伝えようとしているかを知ること。
- (2) 生活単元学習の計画・実施に当たっては、授業時間等を児童生徒の心身の障害の状態に合わせるなど工夫して、弾力的な運用ができるようにすること。
- (3) 生活単元学習の実施に当たっては、抽象的なものを避け、具体的で、何回も繰り返して行えるようにすること。
- (4) 遊びを通して、教師と児童生徒との感情のふれ合いを経験させること。
- (5) 成功感、成就感を体得させること。
- (6) 経験を豊かに広げるための校外での学習経験などは、生活単元学習の前段階の指導として位置づけてもよい。
- (7) 教材・教具の開発、教育環境の整備、充実に努めること。
- (8) 家庭との連携を緊密に図ること。

* 生活単元学習指導の手引（一部改変）

重度・重複障害のある児童生徒への指導上の留意点として8点示されていますが、1点目が基になります。生活単元学習指導の手引では、1点目について、「教師は児童生徒と生活を共にし、十分な信頼関係をつくることが第一に必要」と解説しています。1点目も含めて上記8点は、内容によって重度・重複障害のある児童生徒以外の児童生徒にも該当し、重要な点と言えます。

なお、重度・重複障害のある児童生徒への指導については、自立活動の内容との関連も考慮しながら、指導内容・方法等を検討する必要があります。